

○議長（河野）5番、森繁樹君。

○5番（森）はい、議長。

○議長（河野）森君。

○5番（森）5番、森です。

○議長（河野）森君。

○議長（河野）森君は一問一答であります。1問目の質問を許します。

○5番（森）はい。議長に許しを得たので一般質問をさせていただきます。

「綾川に泊まる理由を作る」。

本町にホテルがあつたらどうなるでしようか。どこに、どういった、ターゲットを誰にして、という視点でホテルがあつたらどうなるかを考えてみました。

本町は「通過される町」とよく言われます。事実、国道32号の日平均交通量は上り下りで約3万3千台、高松道・高松西IC～善通寺IC間は延べ4万6千台。ところが、これだけの車が行き交うにもかかわらず、本町で泊まる理由はほぼありません。観光名所は限定的、既存宿も少なく、ドライバーが「ここで泊まろう」と決断する最後の決め手は価格と利便性しかないのが実情です。

ターゲットを「車客」で考えてみます。

綾川に足を踏み入れる手段は飛行機から、車、電車が主にあると思いますが、今回は車客に絞って考えました。

理由としては、県外観光客の約79%は自家用車・レンタカー・高速バスで来県しています。

そこから推測で綾川町を通過した車利用県外観光客を推測で計算すると709万5千人と数字がでてきます。

車客は宿泊先を条件検索し、「料金」「駐車場の有無」「ワンストップ施設の近さ」で決める傾向が強いとあります。

まとめると、勝ち筋は「安さ+イオン近くのロードサイドホテル」という一つの案になります。

宿泊料金を平日4,500～6,000円、休日7,000円前後を設定し、高松中心部との差別化を図ります。中心部ビジネスホテルは休日7,000円超が相場です。最近高くなってきたかなと思っております。

駐車場については、出来れば平面で大きく確保したいと考えます。高松市中心部は多くが立体駐車場で、有料が基本です。

高速のアクセスでは市内ホテルから高速入口まで渋滞リスクがあるのに対して、本町では府中湖ICや高松西ICまでの短時間がアクセス可能です。

具体的に望ましい設備として、無料平面駐車場の他、大浴場があると思います。

大浴場をスポーツジムとシェア利用する形などの案もあると思います。実際入口を分けて一つの大浴場を使うスタイルの施設も多くあります。もちろん経営が同じということが望ましいですが、上はホテル、下はテナントという形も可能性としてあると

思います。

競合である高松市中心部と真っ向勝負せず、「安い・広い駐車場・イオン近く」で差別化すれば、流入車両の3%が泊まるだけで21万泊、消費額が約9億円を町内に滞留させることの計算になります。

また別の宿泊施設としての話ですが、「もみじ温泉」をスポーツ合宿施設として運用するのはどうでしょうか。全国を見ても地域にぎわいをもたらすスポーツ合宿施設という事例はたくさんあります。言うまでもなく、ホッケー認定の町や周辺施設、周辺施設で行われているイベント等との絡みを深く強め戦略をもってPRしていく必要があります。高齢者のデイサービス用施設と入口を分けることや、時間帯を調節することで大浴場をシェアするという形にすることで、今までより経費負担を分散するという考え方も出来るのではないかでしょうか。社会福祉協議会が管理運営ですが、箱の所有である町に対して、今後の運用に何かお考えがあるか合わせてお伺いします。お願いします。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい。

○町長（前田） ご質問にお答えをいたします。

まず、町が地域の特性や多様なニーズに応じた宿泊施設を整備することは、その運営に多大なコストがかかり、十分な収益を上げることは難しいという現実があります。

そのような中で、町内においては、一棟貸しの宿など、民間事業者による宿泊施設が既にオープンをしておるところあります。民間事業者との連携を強化し、相互に利益を享受できるような仕組みを構築していくことが重要であると考えております。

また、「もみじ温泉」でありますが、平成6年3月に綾上町社会福祉センターとして開設され、綾川町社会福祉協議会が現在建物を所有しております。今年で築が31年経過し、ここ10年間では、サウナとかトイレ、エアコンや加圧ポンプなどの修繕に約2千7百万円余りの多額の費用を費やしてたところであります。

さらに、浴場に関わる箇所だけの改修には、令和4年度の見積もりで1億3千万円程度の費用が必要であることから、令和7年の1月開催の綾川町社会福祉協議会理事会において、令和7年6月末をもって一旦休止するということが決定をされております。

「もみじ温泉」をスポーツ合宿施設として運用するには、施設の老朽化や建物の用途変更に伴う改修工事に多額の費用を要することや、年間を通じて安定した集客を見込むための集客戦略など様々な課題があり、町が運営する場合には、その柔軟性や迅速な対応が難しいため、採算性の観点からも慎重な判断が求められるところでもあります。

いずれにいたしましても、現時点では町としては宿泊施設を整備する予定ではなく、市場の動向を敏感に捉え、需要に応じたサービスを展開する能力がある民間事業者が実施すべきものであると考えております。

以上、答弁といたします。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○5番（森）はい、議長。

○議長（河野）森君。

○5番（森）はい。答弁ありがとうございます。

利益を生むのは大変厳しいというのはもう重々わかってるところですけれども、でも誘致するところ、合致するような民間企業があれば、ぜひ進めていきたいなという認識でよろしいかなっていうのがまず1点と。

これぐらいコストがかかりますっていうのは、いっぱい答弁もらったんですけど、こうあつたら、これぐらい利益を生むかなっていうところの数字っていうのも実際考えていいっていただけたらいいかなと思います。

それも含めて民間にお願いするっていう形なんだとは思うんですけども。もう、これ以上でもない、これ以上何かをもらおうと思ってないんで、しっかり検討していいっていただけたらとは思っています。以上です。

○議長（河野）福家総務課長。

○5番（森）ありがとうございます。

○総務課長（福家）森議員、再質問の民間企業へ任す認識というところと、その辺の数値についてお答えをいたします。

町長答弁でもありましたとおり、町といたしましては、民間の活用してですね、民間の利用により、活用したいなと今のところ考えております。

これにつきましては、当然ながら公共施設の適正な管理も含め、これから検討はしてまいりますが、そういったところ、民間利用を念頭にですね、これから進めていきたいなと考えております。以上です。

○議長（河野）よろしいですか。

○5番（森）はい。

○議長（河野）はい、1問目の質問が終わり、2問目の質問を許します。

○5番（森）失礼しました。ありがとうございました答弁。ぜひ、検討と報告もお願いします。ありがとうございました。2問目いきます。

「町内バス事業における自動運転バス導入の可能性」。

近年、運転士不足と高齢化が同時進行し、地域公共交通の維持が全国的課題となっています。国は「2025年度までに全国50カ所、2027年度に100カ所超で自動運転移動サービスを実現」との目標を掲げ、制度整備と補助メニューを拡充しております。

本町においても運転士確保が年々厳しさを増し、既存ルート維持のための財政負担が避けられない状況です。こうした中、遠隔監視型・完全自動運転（レベル4）ないし限定条件付き自動運転（レベル2～3）を段階的に導入、またはそういった実証実験に對して町の考えを聞きます。お願いします。

○議長（河野）前田町長。

○町長（前田） はい、議長

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい。

○町長（前田） はい。2点目のご質問にお答えをいたします。

町営バスの現状といたしましては、現時点では事業者により問題なく運行ができるという認識であります。ただし、全国的には運転手不足及び高齢化が進行しており、綾川町も例外でないことは町としても認識してはおるところであります。

自動運転車両の導入によりまして、交通の効率化や高齢者の移動手段の確保等、様々な効果が期待できるところでありますが、一方で危険予知のためのセンサーが悪天候時に正常に作動しない等、安全管理上の技術的な課題が山積しております。

また、自動運転車両を導入し1年間運用する際のコストは、令和7年1月28日に開催されましたデジタル庁所管のモビリティワーキンググループにおいて約2億2千万円と示されており、初期投資にかかる費用が膨大であることも大きな課題となっております。

これらは課題でありますが一例であり、自動運転については一朝一夕に導入可能な技術ではないということでありまして、他市町の先行事例や社会的な動向を注視しながら、町における実証実験等については今後の研究課題ということにさせていただきます。

以上、答弁といたします。

○議長（河野） 再質問はございませんか。

○5番（森） はい、議長。

○議長（河野） 森君。

○5番（森） 答弁ありがとうございました。

メリットデメリット、僕も十分理解してるつもりでございます。

ただ、自動運転のこのシステムというかこういうサービスが、何年か後にはもう当たり前になるかなというふうに認識してらっしゃいますか、というのがまず一点。

認識してらっしゃる、もし「はい」であれば、何ていうんすかね、民間というか個人、個々の考え方っぽいかなと言いますけど、どうせするんだったら早いほうがいいかなっていうのは、個人的には思うところあります。

その点、お答え、お考えをお願いします。

○議長（河野） 福家総務課長。

○総務課長（福家） はい、議長。

○議長（河野） 福家君。

○総務課長（福家） はい。

○総務課長（福家） 森議員、質問の自動運転の自動運転が必要であるかの認識について、それから取り組むなら早いほうがいいのではないかというご質問に対してもお答えをいたします。

当然ですね、公共交通につきましては、国の方も交通空白区の解消を一番に念頭に入れております。

こういったところを解決する手段としてですね様々な方法例えは自動運転でありますとか、地域による公共交通の運営とかっていうような内容についても提案していただいております。

町としてはですね、自動運転の導入は、認識はですね、必要であるとは考えておりますが今の町長答弁でもございましたとおり、コストがですね、これから全国的に広まってきた段階でですね、コストの低下が予想されますので、そういったところを見極めた上でですね、取り組むかどうか、検討してまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○5番（森）はい、議長。

○議長（河野）はい、森君。

○5番（森）はい。

○5番（森）ありがとうございました。また調査も研究と含めてその報告を、またお願ひしたいと思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（河野）以上で、森君の一般質問を終わります。